ICT ニュース 2025/11 月

2025/11/19 発行　ICT/感染管理委員会

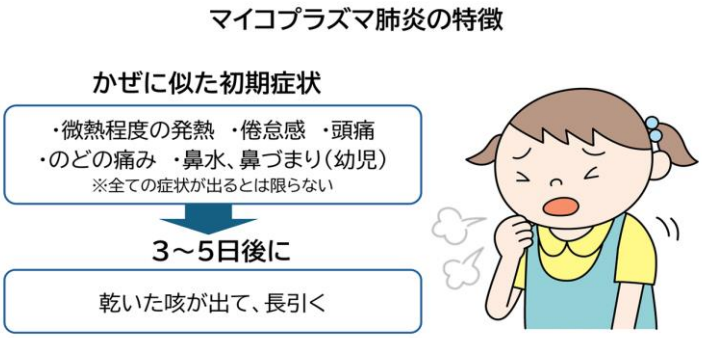
インフルエンザが注意報レベルとなり、なかでもインフル A/H3 型が流行している状況であり、すぐにでも警報レベルに達しそうな勢いです。
他にはマイコプラズマ肺炎、RS ウイルスが流行しており呼吸器感染症が増加しました。
皆さんの体調はいかがでしょうか？今後はノロウイルスによる感染性胃腸炎の流行も懸念されますので、引き続き感染症対策をお願いします。

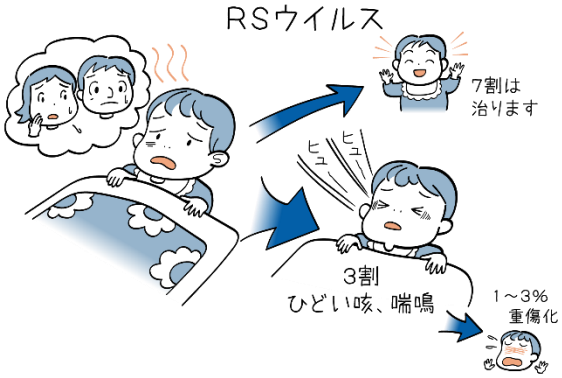
●マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによる細菌感染症です。感染経路は、主に飛沫感染と接触感染で、家族内や学校など濃厚接触が多い場所で、しばしば集団発生が起こります。
潜伏期間は2～3週間程度で、主な症状は発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などで、解熱後も咳が長く続くことがあります。
必ずしも肺炎にならず、上気道炎や気管支炎も多いです。
全年齢層に感染が見られますが、若年齢層に多く、14 歳以下が6～8割を占めます。

●RSウイルス

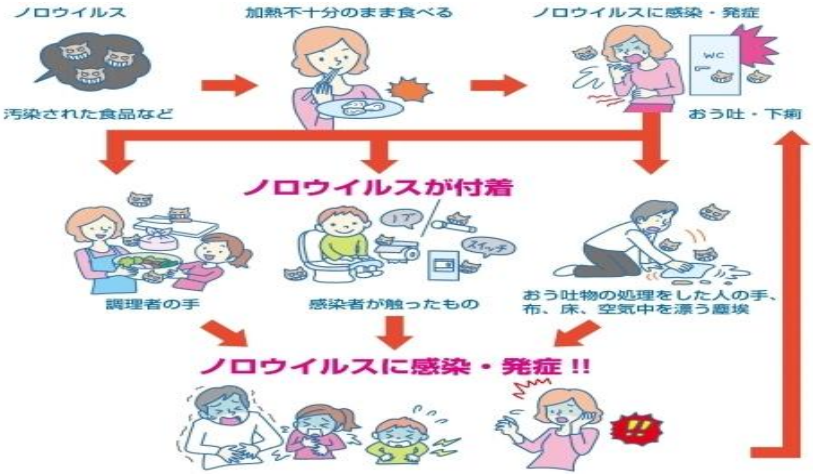
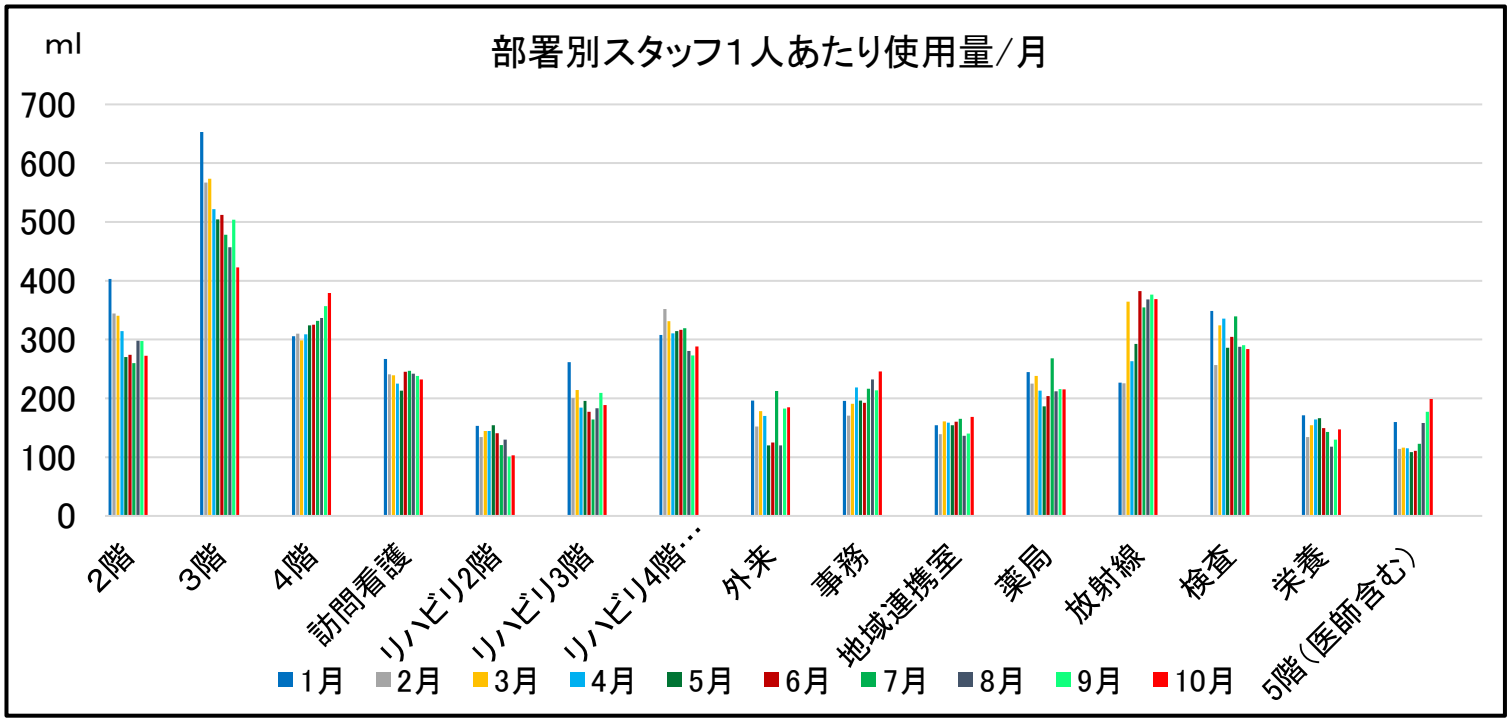
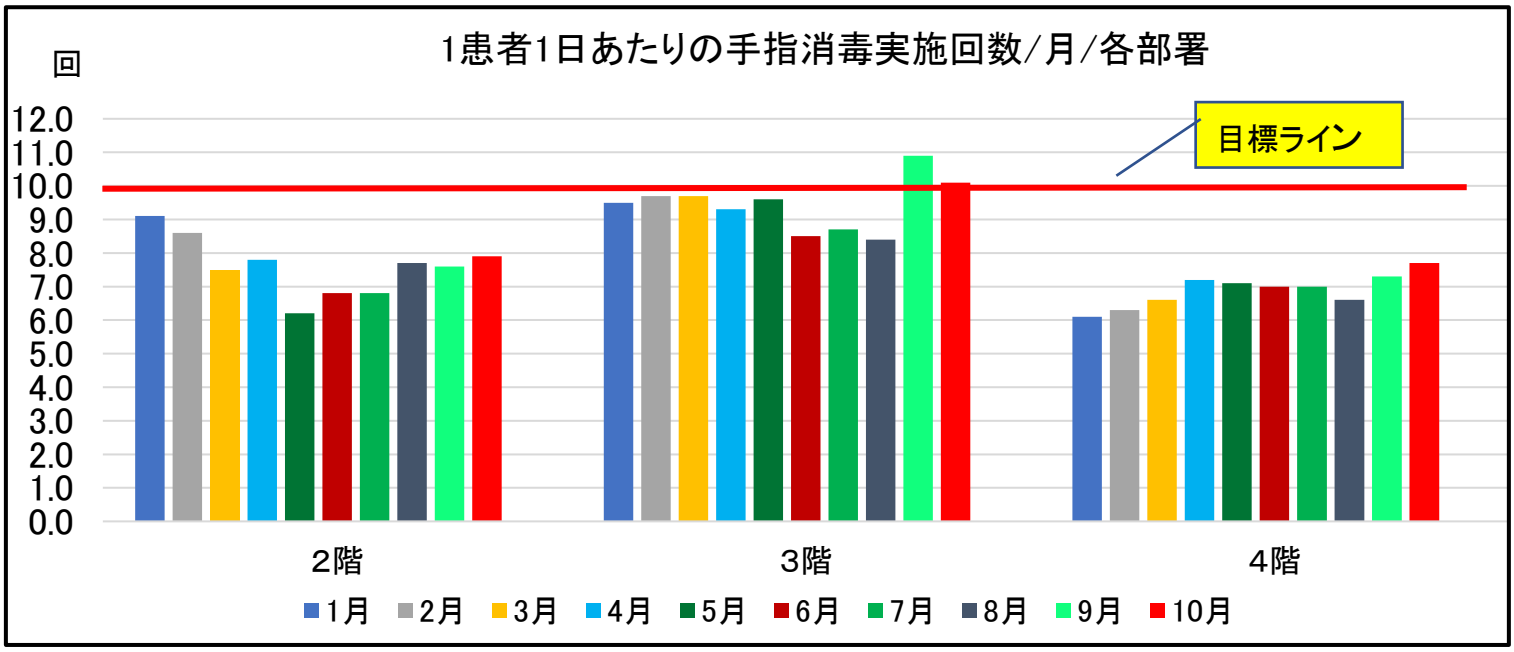
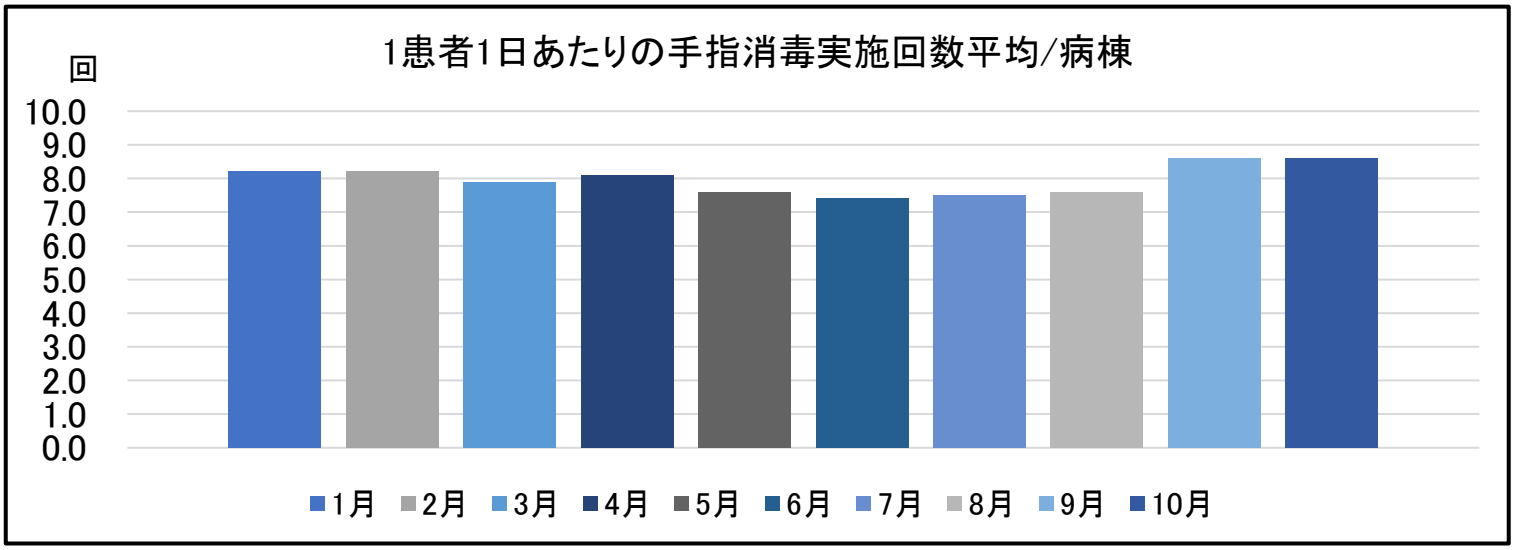
症状は、発熱、咳、鼻水、喘鳴（ぜーぜー、ひゅーひゅーの呼吸）です。年長児や成人では、軽いかぜ症状ですむ場合も多いですがが、乳児早期（特に 2 ヶ月月以下の乳児は呼吸困難で入院したり、さらには人工呼吸管理を要したりすることもあります。（感染した乳幼児の約 30 人に 1 人は入院するという報告もあります）
咳、鼻水、喘鳴で、ミルクの飲む量が減ってきたら、早めに小児科を受診しましょう。
RSウイルス感染症専用の有効な治療法はなく、水分補給の点滴や酸素投与などの対療法のみです。
赤ちゃんがいる家庭では、かぜ症状のある方から赤ちゃんにうつさないようにマスク着用や手洗いを励行してください。





●感染性胃腸炎

これからの時期、感染性胃腸炎の原因は2枚貝によるノロウイルス感染が 7～8 割だといわれています。
突然嘔吐・下痢・発熱の症状があり、感染経路は接触・飛沫・空気です。
有効な抗ウイルス薬はなく、症状がひどい場合は、輸液・水分補給などの対症療法となり、下痢止めの服用は体内にウイルスを留めることになるので用いないようにしましょう。



★2025 年アルコール手指消毒剤使用量